

勉誠社

中古文学会 会員様対象 特別割引のご案内

全品**20%OFF**

割引クーポンコード: 933f1741fb
(期限: ~2026年7月31日)

謹啓

日頃より、弊社をお引き立ていただきまして、誠にありがとうございます。
さて、この度、会員様対象の特別割引セールを行うことになりました。
当リストの新刊・近刊書籍をはじめ、勉誠社タイトル全品が対象となります。
この機会にぜひともご購入をご検討くださいますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

謹白

●ご注文について

- ・弊社ウェブサイトよりご注文を承ります。

<https://bensei.jp>

各種クレジットカード、paypal(クレジットカード・デビットカード)でのご決済が可能です。
ぜひご利用くださいませ。

割引クーポンコード: 933f1741fb (期限: ~2026年7月31日)

こちらの10ケタの英数字を、必ずご入力ください！
未入力の場合、割引が適用されず、定価でのご請求となります。ご了承ください。

- ・メール添付、FAX、電話でもお受けしております。
ご氏名・ご住所・電話番号・公費／私費の区別・公費の場合は必要書類・宛名・日付の有無をお知らせください。
- ・送料
6,000 円 (税込) 未満の購入 → 送料 600 円
6,000 円 (税込) 以上の購入 → 送料無料
(※海外への配送に関しては、実費を頂戴します)

***ウェブサイト以外の方法によるご注文の際は、
中古文学会の会員であることをお知らせください。**



●ご連絡先

Mail info@bensei.jp
電話 03-5215-9021
FAX 03-5215-9025

【勉誠社】研究書 近刊・新刊書籍リスト							
2025～2026年刊行分 ・黄色マーカーのタイトルは展示しております。 ・割引価格は、学会大会会場等での現金販売時の価格です（定価の2割引額の十の位を四捨五入した金額）。 公費支払い等の後払い、弊社ウェブサイトでのご注文の場合は、定価の2割引での販売となります。ご了承くださいませようお願いいたします。							
	書名	著者名	刊行年月	ISBN	定価（税込）	割引価格	注文数
■事典・総記■							
新刊	世界女帝事典	義江明子・氣賀澤保規・井野瀬久美恵 編	2026/06	30026-7	5,940	4,800	
	江戸時代の図説事典 訓蒙図彙	小林祥次郎 解題	2025/10	30019-9	11,000	8,800	
	書物学 第33巻 蔵書家・集書家・書誌学者―蔵書・研究とその時代	編集部 編	2025/12	30733-4	2,200	1,800	
	書物学 第32巻 チリメン絵―ゴッホを魅了した知られざる出版文化	編集部 編	2025/11	30732-7	2,200	1,800	
	書物学 第31巻 100年後も手に取れる本に！ ―日比谷図書文化館「内田嘉吉文庫」の保存・修復・活用	編集部 編	2025/10	30731-0	2,200	1,800	
	書物学 第30巻 書物から渋沢敬三を読む	神奈川大学日本常民文化研究所 編	2025/09	30730-3	2,200	1,800	
	書物学 第29巻 薦屋重三郎と日本の出版文化 薦重手引草	編集部 編	2025/08	30729-7	2,200	1,800	
	書物学 第28巻 相国寺―寺宝が伝える歴史と信仰	相国寺承天閣美術館 編	2025/08	30728-0	2,200	1,800	
	書物学 第27巻 近代製本の100年―明治・大正・昭和	編集部 編	2025/04	30727-3	2,200	1,800	
	書物学 第26巻 古筆見の仕事―真偽の先にあるもの	編集部 編	2025/02	30726-6	2,200	1,800	
■古典文学・文学史■							
新刊	平安時代仮名文芸覚書	今西祐一郎 著	2026/05	39063-3	11,000	8,800	
新刊	北条時広家集―注釈と研究	中川博夫 著	2026/05	39060-2	11,000	8,800	
	杜甫研究年報 第九号	日本杜甫学会 編	2026/04	39449-5	2,200	1,800	
	新装版 俊頼髓脳全注釈	家永香織・小野泰央・鹿野しのぶ・館野文昭・福田亮雄 著	2026/04	39059-6	13,200	10,600	
	日本宗教文化史の射程	吉原浩人 監修／鈴木英之・平沢卓也・崔鵬偉 編	2026/03	31027-3	9,900	7,900	
	梵漢和の中世―言語と論理の和歌史	岡崎真紀子 著	2026/02	39058-9	11,000	8,800	
	和歌が生まれるとき―近世歌人の方法	大山和哉 著	2025/10	39057-2	12,100	9,700	
	杜甫詩論考	後藤秋正 著	2025/10	39054-1	11,000	8,800	
	新装版 源氏物語の話声と表現世界	陣野英則 著	2025/10	39055-8	11,000	8,800	
	新装版 源氏物語論 女房・書かれた言葉・引用	陣野英則 著	2025/10	39056-5	7,700	6,200	
	近松・西鶴・芭蕉と出板文化	長友千代治 著	2025/08	32072-2	8,800	7,000	
	極上の仮名 王朝貴族の教養と美意識	五島美術館 編	2025/06	37020-8	2,750	2,200	
	幽憶 新フランス詩華集―ルネサンスから現代まで	竹本忠雄 著	2025/07	39053-4	6,600	5,300	
	日本中世の宗教世界	阿部泰郎 監修／佐藤愛弓・牧野敦司 編	2025/05	31021-1	9,350	7,500	
	中国の名作をどう読むか―真の主題を見極める	下定雅弘 著	2025/05	39048-0	6,600	5,300	
	杜甫研究年報 第八号	日本杜甫学会 編	2025/04	39448-8	2,200	1,800	
	〈絵語り〉の日本中世	井上泰 著	2025/03	37013-0	9,900	7,900	
	和漢韻文文学の諸相	村上哲見 著／浅見洋二・松尾肇子 編	2025/03	39049-7	13,200	10,600	
	本歌取り表現論考	小山順子 著	2025/03	39050-3	12,100	9,700	
	水門 第三十二号	水門の会 編	2025/03	32463-8	3,850	3,100	
	孝謙天皇・称徳天皇御伝	米田達郎・米田雄介 編著	2025/01	32061-6	7,150	5,700	
	日本人の読書 新装版―古代・中世の学問を探る	佐藤道生 著	2025/01	39047-3	11,000	8,800	
■歴史・文化財・美術史・思想史■							
新刊	北条貞時の時代	北条氏研究会 編	2026/06	32103-3	16,500	13,200	
新刊	古文書研究 第101号	日本古文書学会 編	2026/06	32411-9	4,180	3,300	
新刊	舞楽図の近世的展開―形成・変奏・復古	古谷美也子 著	2026/06	37024-6	9,900	7,900	
新刊	彰義隊―その事実と真実	大藏八郎 著	2026/06	32100-2	4,180	3,300	
新刊	室町時代の将軍家と雅楽	石原比伊呂 著	2026/05	32096-8	11,000	8,800	
新刊	中世前期の武家の学問と交流―金沢文庫本と称名寺聖教	福島金治 著	2026/05	32098-2	11,000	8,800	
新刊	大学の自治と日本近代史―中田薫懐旧夜話と関連史料	北康宏 編集・註解	2026/05	33008-0	14,300	11,400	
新刊	唐代国際文書研究―訳註 陸贄・白居易・李徳裕・封敖の国書	金子修一 著	2026/05	32102-6	3,850	3,100	
新刊	日本中世の畠作と雑穀―「水田中心史観」批判	木村茂光 著	2026/05	32101-9	11,000	8,800	
新刊	古文書考証が読み解く戦国今川氏	大石泰史 著	2026/05	32086-9	3,850	3,100	
新刊	新しい日本考古学―出発のための方法論	竹岡俊樹 著	2026/05	32083-8	3,850	3,100	
	新装版 貸本問屋と貸本文化―娯楽的書籍の出版・流通・受容	松永瑠成 著	2026/04	32099-9	9,350	7,500	
	「文人画」と近代―概念・中国絵画史学・国画	李趙雪 著	2026/04	37026-0	11,000	8,800	
	Crypto-Kirishitan Relics in Japan（潜伏切支丹遺物考）	鈴木秀三郎（Hidesaburo SUZUKI） 著	2026/04	32097-5	6,600	5,300	
	中国の舞台	伊藤茂・中山文 著	2026/03	37027-7	5,940	4,800	
	国策紙芝居からみる日本の戦争Ⅱ	神奈川大学非文字資料研究センター「戦時下国策紙芝居と大衆メディアの研究」班 編著	2026/03	37025-3	11,000	8,800	
	近代東アジアと張家口―忘却された帝国の最前線	劉建輝 編	2026/03	32095-1	4,950	4,000	
	昭和天皇の再発見	所功 著	2026/03	32094-4	2,750	2,200	
	モノづくりから見る古代・中世の博多湾沿岸地域―保存科学調査が明かす生産と流通	比佐陽一郎 著	2026/03	32093-7	16,500	13,200	
	絵画史料を読む―中世・近世の生活文化史	斉藤研一 著	2026/03	32090-6	4,620	3,700	
	明治のインテリゲンチア・前衛派マスコミ人 鈴木秀三郎遺稿集	鈴木秀三郎 著／鈴木武夫・横山學 編	2026/03	32085-2	13,200	10,600	
	戦国合戦図屏風・絵巻を読む	堀新 編	2026/03	32082-1	14,300	11,400	
	歴史学の見方・考え方―研究の舞台裏	高橋宏明・宮間純一 編	2026/03	32092-0	2,200	1,800	
	細川家史料と史跡が伝える 近世初期キリシタンの信仰と逡巡―禁教をめぐる群像	稲葉継陽 編	2026/03	32091-3	3,850	3,100	

	ラジオの技術・産業の百年史 増補改訂版―大衆メディアの誕生と変	岡部匡伸 著	2026/02	32081-4	7,700	6,200	
	慶應義塾図書館所蔵 原本「八代日記」―原色影印と翻刻	中島圭一 編	2026/02	32087-6	19,800	15,800	
	江戸の大名家臣団	仲泉剛 著	2026/02	32089-0	11,000	8,800	
	日本近世・近代村落史研究	渡辺尚志 著	2026/02	32088-3	11,000	8,800	
	古文書研究 第100号	日本古文書学会 編	2026/01	32410-2	4,180	3,300	
	歌謡と芸態―在原業平の表象	児玉絵里子 著	2026/01	37023-9	4,180	3,300	
	増補改訂版 地域から考える世界史―日本と世界を結ぶ	桃木至朗 監修／藤村泰夫・岩下哲典 編	2025/12	32071-5	5,280	4,200	
	鷹狩の日本史 増補改訂版	福田千鶴・武井弘一 編	2025/12	32069-2	4,620	3,700	
	高木東六パリ音楽留学日記―1928年～1931年	藤井浩基 著	2025/12	37022-2	12,100	9,700	
	黎明期の活字出版―和装活版本から文学書肆春陽堂の成立	山田俊治 著	2025/12	39051-0	6,600	5,300	
	古文書が映しだす江戸末期の信州松島村	日野正紀 著	2025/12	32084-5	5,500	4,400	
	洛中洛外図屏風の歴史学―歴博甲本から吉川史料館本まで	大塚活美 著	2025/11	32074-6	13,200	10,600	
	文化財を未来につなぐ博物館と学芸員の仕事―学芸員をめざす人へ	高木徳郎 編著	2025/11	30022-9	3,080	2,500	
	やさしい中国近現代史	泉谷陽子・井上久士・水羽信男 著	2025/11	32080-7	3,080	2,500	
	新彰義隊戦史 増補改訂版―附・「彰義隊名鑑」「彰義隊文書」	大藏八郎 編著	2025/11	32078-4	7,700	6,200	
	高山寺本 明恵上人夢記訳注	奥田 勲・平野多恵・前川健一・立木宏哉・小宮俊海・野呂 靖 編	2025/10	31022-8	8,800	7,000	
	法華験記の形成と思想	岡田文弘 著	2025/10	31026-6	11,000	8,800	
	新装版 書籍流通史料論 序説	鈴木俊幸 著	2025/10	32077-7	8,800	7,000	
	宋代中国都市の形態と構造 新装版	伊原弘 著	2025/10	32079-1	4,950	4,000	
	新装版 近世蔵書文化論 地域〈知〉の形成と社会	工藤航平 著	2025/10	32075-3	8,800	7,000	
	中世地下文書論の方法と実践	春田直紀 編	2025/10	32076-0	9,900	7,900	
	會澤正志齋と水戸学の国体論	藤野博 著	2025/09	32073-9	3,300	2,600	
	醍醐寺の法流と史料	佐藤亜莉華 著	2025/07	31023-5	8,800	7,000	
	古代木簡の世界―地方木簡がひらく古代史	森公章 著	2025/07	32066-1	3,080	2,500	
	壮（チワン）族の歴史と文化	田畑博子 編	2025/07	33007-3	6,600	5,300	
	外から見た江戸時代の書籍文化―写本・版本・在外書籍	ピーター・コーニツキー 著	2025/07	32067-8	9,900	7,900	
	朝鮮の国家形成と東アジア	武田幸男 著	2025/07	32070-8	13,200	10,600	
	和様と唐様の建築史学史	野村俊一 編著	2025/07	35004-0	8,800	7,000	
	徳川美術館蔵「遊楽図屏風（相応寺屏風）」は語る―将軍家光の政治と「邸内遊楽図」の誕生	黒田日出男 著	2025/07	32068-5	4,180	3,300	
	宋代士大夫官僚の基層社会と構造	伊原弘 著	2025/05	32049-4	13,200	10,600	
	増補改訂版 道教美術の可能性	齋藤龍一・鈴木健郎・土屋昌明 編	2025/04	37019-2	3,300	2,600	
	中国の女性演劇―越劇とジェンダー	中山文 著	2025/03	37018-5	8,250	6,600	
	新装版 武蔵武士を歩く―重忠・直実のふるさと 埼玉の史跡	北条氏研究会 編	2025/03	32062-3	2,970	2,400	
	武蔵武士を巡る―東京・神奈川の史跡と伝説	北条氏研究会 編	2025/03	32055-5	4,180	3,300	
	茶の湯の文化史	五味文彦 著	2025/03	32060-9	2,640	2,100	
	貸本問屋と貸本文化―娯楽的書籍の出版・流通・受容	松永瑠成 著	2025/03	32063-0	11,000	8,800	
	道教文化と日本―陰陽道・神道・修験道	日本道教学会 編	2025/03	31020-4	4,180	3,300	
	江戸庶民の読書と学び 増補改訂版	長友千代治 著	2025/02	32065-4	5,280	4,200	
	古文書研究 第98号	日本古文書学会 編	2025/01	32408-9	4,180	3,300	
	地方史誌から世界を読む―地方史誌から世界を読む	小二田章 編	2025/01	32064-7	8,800	7,000	
■ 日本語学・言語学 ■							
	論究日本近代語 第4集	日本近代語研究会 編	2026/03	38524-0	19,800	15,800	
	訓点語と訓点資料 第一五六輯	訓点語学会 編輯	2026/03	38102-0	4,950	4,000	
	字典・詞典の研究	藤本灯 編／阿辻哲次・池田証寿 監修	2026/02	38008-5	11,000	8,800	
■ 〈アジア遊学〉 ■							
近刊	321 帝国劇場―洋楽・洋舞興行と日本の近代化	森本頼子・井口淳子・大西由紀 編著	2026/07	32567-3	3,300	2,600	
新刊	320 日本語と漢字音・漢語音―データベースが切り開く新しい世界	加藤大鶴・石山裕慈・佐々木勇 編	2026/07	32566-6	3,300	2,600	
新刊	319 敦煌変文・俗講と民間信仰の世界―大地の文学と信仰	荒見泰史 編	2026/06	32565-9	3,850	3,100	
新刊	318 日中古典文芸の往還と対話	李銘敬・小峯和明 編	2026/05	32564-2	3,520	2,800	
	317 アジアの都市遺産と祭祀・仏教	西本昌弘 編	2026/04	32563-5	3,520	2,800	
	316 宗教のダイナミズム―アジアの地域形成を読み解く	宮坂清 編	2026/03	32562-8	3,080	2,500	
	315 中・近世門跡論の可能性―貴種住持の寺はいかに存続したのか	近藤祐介・石津裕之 編	2026/03	32561-1	3,520	2,800	
	314 戒厳令下の台湾文学―本省籍知識人のアイデンティティと日本	工藤貴正 編	2026/02	32560-4	3,850	3,100	
	313 日本トルコ交流秘史―イスタンブル旧総領事館の100年	NPO法人日本トルコ交流協会 監修／ヤマ ンラール水野美奈子・佐々木紳 編著	2026/01	32559-8	3,520	2,800	
	312 日本酒を読み解く―歴史・文化・技術	畑有紀・芳澤元 編	2025/12	32558-1	3,300	2,600	
	311 中国学術を貫く視座―章学誠の可能性	古勝隆一・竹元規人 編	2025/12	32557-4	3,520	2,800	
	310 海と陸のはざま―アジア・太平洋の干潟文化を探る	秋道智彌・辻貴志 編	2025/10	32556-7	3,850	3,100	
	309 外庄の日本古代文学史	遠藤耕太郎・濱田寛・吉見健夫 編	2025/10	32555-0	3,300	2,600	
	308 鏡としての日本文学―交響する中日古典	張龍妹 編	2025/10	32554-3	3,520	2,800	
	307 空間と環境の古代東アジア世界史―GISと歴史学・考古学の協奏	中村慎一・渡部展也・小林正史・菊澤律子・大川裕子・村松弘一 編著	2025/09	32553-6	3,850	3,100	
	306 建築とオリジナル 創造・継承・解釈	赤澤真理・加藤悠希・米澤貴紀 編	2025/08	32552-9	4,180	3,300	
	305 近現代日本を生きるテキスト遺産―モノ×営為×世界	Edoardo Gerlini・河野貴美子 編	2025/07	32551-2	3,300	2,600	
	304 北欧口マンとナショナリズム―内村鑑三・開拓・民族主義	中丸禎子・田中琢三 編著	2025/07	32547-5	4,180	3,300	
	303 瓦から探る中世寺院	中世瓦研究会 編	2025/05	32549-9	3,300	2,600	
	302 アク・ベシム遺跡を掘る―よみがえるシルクロードの交易都市	山内和也・齊藤茂雄 編	2025/05	32548-2	3,520	2,800	
	301 描かれた法華経―本法寺蔵「法華経曼荼羅図」の時空	原口志津子 編	2025/03	32547-5	3,300	2,600	
	300 性なる仏教	大谷由香 編	2025/01	32546-8	3,080	2,500	

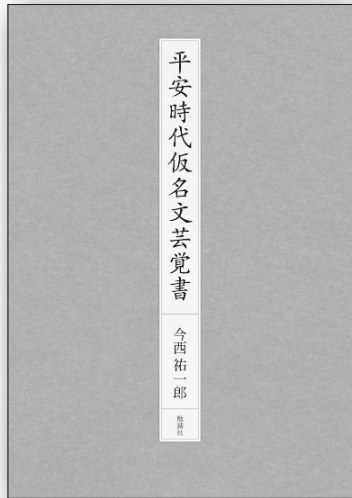
■図書館学・アーカイブ■							
新刊	デジタルアーカイブの権利処理入門	数藤雅彦 責任編集／小山紘一・川野智弘・酒井麻千子・鈴木康平 編	2026/06	30025-0	3,850	3,100	
	学校司書のお仕事	大橋崇行 著／有山裕美子 監修	2026/04	30023-6	1,980	1,600	
	学校図書館サービス論	金沢みどり・雪嶋宏一 監修／金沢みどり・望月道浩 編著	2025/10	30403-6	2,970	2,400	
	大宅壮一文庫解体新書Ⅱ 雑誌図書館を活用した研究	阪本博志 編	2025/09	30021-2	3,300	2,600	
	調べ物に役立つ 図書館のデータベース 2025年版	小曽川真貴 著	2025/07	30016-8	2,200	1,800	
	デジタルアーカイブ入門—つかう・つくる・支える	柳与志夫・渡邊英徳 責任編集	2025/06	30015-1	4,620	3,700	
	「メタデータ」のパーспекティブ	池内有為・木村麻衣子 責任編集	2025/06	30306-0	4,950	4,000	
	図書館の日本史 増補改訂版（ライブラリーぶっくす）	新藤透 著	2025/06	30018-2	4,180	3,300	
	学校図書館概論	金沢みどり・雪嶋宏一 監修／雪嶋宏一・須永和之 編著	2025/05	30402-9	2,750	2,200	
	デジタルデータの長期保存・活用—その理論と実践	嘉村哲郎 責任編集	2025/03	30305-3	4,620	3,700	
■関連書籍■							
	正訳 源氏物語 本文対照 第一冊（オンデマンド版）	中野幸一 訳	2024/12	89571-8	2,750	2,200	
	正訳 源氏物語 本文対照 第二冊（オンデマンド版）	中野幸一 訳	2023/12	89572-5	2,750	2,200	
	清少納言伝—中宮定子讃仰と鎮魂の生涯	上原作和 著	2024/11	39046-6	5,940	4,800	
	増補改訂版 明恵上人夢記 訳注	奥田勲・平野多恵・前川健一 編	2024/11	31019-8	8,800	7,000	
	看聞日記とその時代—好奇心旺盛な皇族・伏見宮貞成が語る中世社会	藺部寿樹 著	2024/10	32059-3	4,620	3,700	
	源氏絵研究の最前線	稲本万里子 編著	2024/10	37016-1	14,300	11,400	
	日本人にとって教養とはなにか—〈和〉〈漢〉〈洋〉の文化史	鈴木健一 著	2024/10	39044-2	3,850	3,100	
	鎌倉幕府の文学論は成立可能か!?—真名本『曾我物語』テキスト論	神田龍身 著	2024/10	39045-9	4,180	3,300	
	平安朝詩文論集	後藤昭雄 著	2024/09	39043-5	13,200	10,600	
	日本古典文学と中国の古伝承—物語形成の比較文学的考察	三木雅博 著	2024/09	39042-8	11,000	8,800	
	和紙を科学する 製紙技術・繊維分析・文化財修復	大川昭典 著	2024/06	35002-6	4,620	3,700	
	新装版 正訳 紫式部日記 本文対照	中野幸一 訳	2024/05	39041-1	2,420	1,900	
	日本人は漢文をどう読んだか—直読から訓読へ	湯沢質幸 著	2024/05	38006-1	3,520	2,800	
	増補改訂版 図像学入門—疑問符で読む日本美術	山本陽子 著	2024/04	37014-7	2,640	2,100	
	古文書修復講座—歴史資料の継承のために	神奈川大学日本常民文化研究所 監修／関口博巨 編	2024/03	32035-7	4,180	3,300	
	本 かたちと文化—古典籍・近代文献の見方・楽しみ方	国文学研究資料館 編	2024/02	30011-3	3,080	2,500	
	訂正新版 図説 書誌学—古典籍を学ぶ	慶應義塾大学附属研究所斯道文庫 編	2023/12	30010-6	3,850	3,100	
	紙のレンズがひらく古典籍・絵画の世界	江南和幸・佐藤悟・横井孝（新コディコロジ—研究会） 編	2023/11	39036-7	4,950	4,000	
	本朝麗藻詳注	柳澤良一 著	2023/11	39030-5	30,800	24,600	
	紫式部伝—平安王朝百年を見つめた生涯	上原作和 著	2023/10	39035-0	5,940	4,800	
	紫式部集の世界	廣田収・横井孝 編	2023/07	39031-2	10,780	8,600	
	深掘り！紫式部と源氏物語	中野幸一 著	2023/04	39010-7	2,640	2,100	
	学習院本「藤袴」（榊原本僚帖）の書誌学的考察	武藤那賀子 著	2023/03	39023-7	16,500	13,200	
	王朝物語論考—物語文学の端境期	横溝博 著	2023/02	39024-4	13,200	10,600	
	日本古典文学を世界にひらく—EJJS（ヨーロッパ日本研究協会）で発表しよう	横溝博／クレメンツ・レベッカ／ノット・ジェフリー 編	2022/12	39014-5	4,950	4,000	
	和漢朗詠集とその享受 増訂新版	三木雅博 著	2022/10	39012-1	16,500	13,200	
	本朝文粹抄 七	後藤昭雄 著	2022/02	39511-9	3,520	2,800	
	飛鳥井家歌学の形成と展開	日高愛子 著	2022/01	39006-0	12,100	9,700	
	物語文学の諸相と展開	中野幸一 著	2021/03	39000-8	13,200	10,600	
	源氏物語の近世—俗語訳・翻案・絵入本でよむ古典	レベッカ・クレメンツ／新美哲彦 編	2019/08	29186-2	13,200	10,600	
	三条西家本狭衣物語 注釈	学習院大学平安文学研究会 編	2019/02	29177-0	9,900	7,900	
	六条藤家歌学書の生成と伝流	梅田径 著	2019/02	29178-7	8,800	7,000	
	『源氏物語』を演出する言葉	吉村研一 著	2018/02	29159-6	7,700	6,200	
	ひらかれる源氏物語	岡田貴憲・桜井宏徳・須藤圭 編	2017/10	29154-1	5,060	4,000	
	古典文学の常識を疑う	松田浩・上原作和・佐谷眞木人・佐伯孝弘 編	2017/06	29147-3	3,080	2,500	
	新装版 唐物と東アジア—舶載品をめぐる文化交流史	河添房江・皆川雅樹 編	2016/02	22140-1	2,200	1,800	
	『和泉式部日記』を越えて	岡田貴憲	2015/10	29106-0	7,700	6,200	
	『源氏物語』という幻想	中川照将	2014/10	29081-0	6,600	5,300	
	『源氏物語』前後左右	加藤昌嘉	2014/05	29069-8	5,280	4,200	
	フルカラー 見る・知る・読む 源氏物語	中野幸一 著	2013/07	29057-5	2,420	1,900	
	揺れ動く『源氏物語』	加藤昌嘉 著	2011/09	29020-9	5,280	4,200	
	アジア遊学 297 廃墟の文化史	木下華子・山本聡美・渡邊裕美子 編	2024/10	32543-7	3,300	2,600	
	アジア遊学 283 東アジアの後宮	伴瀬明美・稲田奈津子・榊佳子・保科季子 編	2023/06	32529-1	3,520	2,800	
	アジア遊学 271 儒教思想と絵画—東アジアの勸戒画	水野裕史 編	2022/06	32517-8	3,520	2,800	
	アジア遊学 261 古典は遺産か？ 日本文学におけるテキスト遺産の利用と再創造	Edoardo GERLINI・河野貴美子 編	2021/10	32507-9	3,080	2,500	

今西祐一郎[著]

(いまにしゅういちろう)一九四六年生まれ。京都大学文学部卒業。九州大学、国文学研究資料館名誉教授。専門は日本古典文学。著書に『通俗伊勢物語』(平凡社東洋文庫、一九九一年)、『源氏物語覚書』(岩波書店、一九九八年)、『蜻蛉日記覚書』(岩波書店、二〇〇七年)、『死を想え』(『九相詩』と『休骸宣』) (ブックレット) (書物を開く)、平凡社、二〇一六年)などがある。

平安時代仮名文芸覚書

『伊勢物語』『土佐日記』『蜻蛉日記』をはじめ、さまざまな平安時代の仮名文芸のことばや結構を、その時代の感性や認識を見渡す視点より検討。従来の解釈の刷新を促す新見を提示する待望の一冊。



定価 11,000 円 (本体 10,000 円)

A5判上製カバー装・352頁
ISBN 978-4-585-39063-3 C3095
2026年5月刊行

目次

伊勢物語

- 『伊勢物語』の形成とその背景
- 「まめ男」の背景——二段
- 「用心」の歌——二段
- 「築地のくづれ」——五段
- 「友」か「供」か——八・九段
- 「うばからたち」——六十三段
- 「わがたのむ君がためにと」——九十八段
- 「うづらとなりて鳴きをらむ」——一二三段
- 恋と死

日記

- 『土佐日記』の日付はどう訓むか
- 「日記」と「歌」——平安仮名日記の編集
- 『蜻蛉日記』解説
- 「例の人」考——道綱母の結婚
- 「いたらぬところなしと聞き古したる手」——兼家の懸想文
- 「うつろひたる菊」
- 『蜻蛉日記』の本文と辞書——『広辞苑』の用例
- 仮名日記の冒頭——『紫式部日記』をめぐって

その他

- 十八 「なさけ」について
 - 十九 「なさけ」の系譜——『伊勢物語』の「男」から光源氏へ
 - 二十 「色好み」について
 - 二十一 「時の聖俗」——「き」と「けり」
 - 二十二 「このたびは幣もとりあへず」は誰の歌か——『百人一首』菅原道真歌について
 - 二十三 「口にては宰相とこそいふべかりけれ」——「参議」の呼び方
 - 二十四 『主殿集』について
- 初出一覧

書名	部数
平安時代仮名文芸覚書	部
今西祐一郎[著]	
ご送付先(氏名・住所・電話番号)	

定価11,000円(本体10,000円)	部
A5判上製カバー装・352頁	
ISBN 978-4-585-39063-3 C3095	
2026年5月刊行	

敦煌変文・俗講と 民間信仰の世界 大地の文学と信仰

中国西北、甘肅省西南部に位置し、古来より東西往来の要衝として栄えてきた敦煌。この土地から一九〇〇年に発見された「藏経洞」文獻は約六万四〇〇〇点に及ぶ。

その大半は手書きで、経典、注釈、帳簿、書状、地方行政文書、歌謡、説話、教育用の手本など、内容は驚くほど多岐にわたる。その中核をなす一群が、講唱文学と呼ばれる文獻群——変文、講経文、押座文、讃文、取散文など——である。

それらの多様な史料は、どのように交錯し重なり合い、歴史的現実を描き出してきたのか。

そして、その文化的営為が日本を含む東アジアへとどのように伝播し、変容し、再創造されてきたのか。

六朝から唐宋にかけての東アジア世界において、人々がいかに「大地」に根ざしながら文学を生み出し、信仰を育み、思想を形成してきたのかを問い直す。

序文：荒見泰史

敦煌の信仰と文学：荒見泰史

唐五代における俗講の開催時期と王権との関係：楊明璋

敦煌講唱文学における「省略体」の研究——『妙法蓮華経講経文』、『維摩詰経講経文』を例として：何劍平

敦煌本『王昭君』詩の研究：孫尚勇

『燕子賦』二種から見る敦煌對話体写本文獻分類の一視点：趙麗荏

敦煌文獻中に見られる人神故事の信仰表現と文学：林生海

唐代敦煌における民衆の仏教信仰と日常の探求

——その文学的側面——フランス国立図書館所蔵敦煌文獻「釈門文範」を中心に：黄志杰

「漢法本内伝」のテクスト形成に関する諸問題の研究：薛国中（翻訳：劉苗苗）

慧覺考：楊柳

敦煌文獻「讀法門寺真身五十韻」を起点に探る円仁入唐求法の記憶——『源氏物語』への受容と影響：陳斐寧

「靈驗譚」から見る仏教文獻作品の成立——靈驗譚と伝統文学の関係を兼ねて論ずる：馮家興

「千字文」と仏教——書法・啓蒙・禪師語録からの考察：任占鵬

敦煌・トルファン文書にみられる「側書」の再考察：玉素甫艾沙

敦煌新出土「隋鄯善郡司馬張教墓誌」の考釈：馬振穎・黃瑞娜（翻訳：劉苗苗）

王符の立場と思想：長谷川隆一

色彩と儒教的秩序：荒見愛

杜甫「譏陶説」に関する公案の再考察：張月

定価3,850円・本体3,500円

A5判・並製カバー装・336頁

2026年6月刊行

ISBN978-4-585-32565-9 C1398

【アジア遊学№319】

書名	冊数
敦煌変文・俗講と民間信仰の世界 ——大地の文学と信仰 荒見泰史〈編〉	冊
送付先住所・氏名（通信欄）	

定価 3,850円・本体 3,500円

A5判・並製カバー装・336頁

2026年6月刊行

ISBN978-4-585-32565-9 C1398

【アジア遊学№319】

株式会社勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <https://bensei.jp/>

FAX●03-5215-9025

金子修一〔著〕

唐代国際文書研究

訳註 陸贄・白居易・李徳裕・封敖の国書

〔目次〕

国家間で交わされる文書、国書――。

その形式的特徴は冒頭の書式に鮮明に現れる。

しかし、書式が丁寧であつても内容が強硬な場合もあり、特に唐と異民族との間に交わされた国書については、冒頭と内容との関係に留意しながら読み解いていくことが肝要である。

じゅうらい盛唐の玄宗朝までの唐代国書の研究に取り組んできた著者は、

本書では唐の勢いが次第に傾いていく

唐代後半の国際関係の動きと重ね合わせつつ、

白居易・陸贄（りくし）・李徳裕・封敖（ほうこう）が残した国書など、内容の伝わる同時期の国書はすべてを丹念に読み解く。

そこからは唐の朝廷と有力な異民族の有力者との遣り取りや、

辺境における唐の官僚と異民族との駆け引きを如実に窺うことができる。

〔編者プロフィール〕

金子修一（かねこ・しゅういち）

一九四九年生まれ。元國學院大學文学部教授。専門は中国古代史。著書に『古代中国と皇帝祭祀』（汲古書院、二〇〇一年）、『中国古代皇帝祭祀の研究』（岩波書店、二〇〇六年）、共編著に『梁職貢図と東部ユーラシア世界』（共編、勉誠出版、二〇一四年）、『日本古代交流史入門』（共編、勉誠出版、二〇一七年）などがある。

序に代えて―唐代国際文書形式研究の回顧

〔文苑英華〕卷四六八 與廻鵠可汗書 陸贄（一）（三）

〔旧唐書〕卷一四七 高郢伝

〔文苑英華〕卷四六八 與廻鵠可汗書 白居易（一）（四）

〔文苑英華〕卷四六八 賜回鵠可汗勅書 李徳裕（一）（五）

〔文苑英華〕卷四六八 賜太和公主書 李徳裕（一）（三）

〔文苑英華〕卷四六八 賜回鵠囉斯特勒等詔 李徳裕（一）（四）

〔全唐文〕卷六九九 賜回鵠可汗書意 李徳裕（一）（二）

〔全唐文〕卷六九九 賜回鵠可汗書 李徳裕（一）（三）

〔全唐文〕卷六九九 賜回鵠可汗書 李徳裕（一）（二）

〔文苑英華〕卷四六八 賜党項勅書 李徳裕（一）（二）

〔文苑英華〕卷四六八 賜党項勅書 李徳裕（一）（二）

〔文苑英華〕卷四六八 賜党項勅書 李徳裕（一）（二）

〔文苑英華〕卷四六八 賜党項勅書 李徳裕（一）（二）

〔文苑英華〕卷四六八 賜党項勅書 李徳裕（一）（二）

〔文苑英華〕卷四六八 賜党項勅書 李徳裕（一）（二）

〔文苑英華〕卷四六八 賜党項勂書 李徳裕（一）（二）

〔文苑英華〕卷四六八 賜党項勂書 李徳裕（一）（二）

〔文苑英華〕卷四六八 賜党項勂書 李徳裕（一）（二）

〔文苑英華〕卷四六八 賜党項勂書 李徳裕（一）（二）

〔文苑英華〕卷四六八 賜党項勂書 李徳裕（一）（二）

〔文苑英華〕卷四六八 賜党項勂書 李徳裕（一）（二）

〔文苑英華〕卷四六八 賜党項勂書 李徳裕（一）（二）

〔文苑英華〕卷四六八 賜党項勂書 李徳裕（一）（二）

〔文苑英華〕卷四六八 賜党項勂書 李徳裕（一）（二）

〔文苑英華〕卷四六八 賜党項勂書 李徳裕（一）（二）

〔文苑英華〕卷四六八 賜党項勂書 李徳裕（一）（二）

〔文苑英華〕卷四六八 賜党項勂書 李徳裕（一）（二）

〔文苑英華〕卷四六八 賜党項勂書 李徳裕（一）（二）

〔文苑英華〕卷四六八 賜党項勂書 李徳裕（一）（二）

〔文苑英華〕卷四六八 賜党項勂書 李徳裕（一）（二）

〔文苑英華〕卷四六八 賜党項勂書 李徳裕（一）（二）

〔文苑英華〕卷四六八 賜党項勂書 李徳裕（一）（二）

〔文苑英華〕卷四六八 賜党項勂書 李徳裕（一）（二）

定価 3,850 円
（本体 3,500 円）A5判並製カバー装・352頁
ISBN 978-4-585-32102-6 C1022
2026年5月刊行

書 名	部 数
唐代国際文書研究 訳註 陸贄・白居易・李徳裕・封敖の国書 金子修一〔著〕	定価3,850円(本体3,500円) A5判並製カバー装・352頁 ISBN978-4-585-32102-6 C1022 2026年5月刊行
ご送付先（氏名・住所・電話番号）	部

株式会社勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <https://bensei.jp/>

FAX●03-5215-9025

梵漢和の中世

言語と論理の和歌史

岡崎真紀子〈著〉

人間文化研究機構 国文学研究資料館教授。総合研究
大学院大学教授（併任）。専門は中古文・中世文学。
主な論文に『散木奇歌集』における歌題の生成（『国
語国文』九十巻九号、二〇二一年九月）、著書に『やま
とことば表現論―源俊賴へ（笠間書院、二〇〇八年）、
『発心和尚集 極楽願往生和歌 新注』（青簡舎、二〇一
七年）、共編著に『百韻連歌撰注釈 第一巻（連歌注釈
書刊行会編 新泉社、二〇二三年）などがある。

和歌とは一体いかなるものであるのか――

仏教の思想と文化が広まり、定着していった中世日本において、
その問いの答えは、天竺・中国・日本の三国にわたる世界認識・言語意識のなかに求められていった。
仏教に由来する言語表現や論理を、和歌はどのように受け容れたのか。

その受容のなかで、和歌・和語をめぐる表現や思想はどのように深化・展開していったのか。
和歌・連歌の表現、それをめぐる注釈や説話、さらには密教学、悉曇学、神道説の言説など、
和歌にまつわる「ことば」への意識と葛藤を記した諸資料を通覧・分析し、
これまで見落とされてきた「もう一つの和歌史」を描き出す画期的成果。

総論

I 部

序の文章史

第一章 勅撰和歌集仮名序小史

第二章 勅撰和歌集序という論理

第三章 『千載和歌集』から『新撰古今和歌集』へ

序における梵漢和

II 部

悉曇の歌学史

第四章 院政期における歌学と悉曇学

第五章 顕昭の歌学と音韻相通説

第六章 仙覚『萬葉集註釈』における言語意識

第七章 『毘沙門堂本古今集注』に現れた語学的方法

第八章 『毘沙門堂本古今集注』における韻学的論理

第九章 「五音連声」の歌学史

III 部

「釈教」の和歌史

第十章 「釈教」題の和歌と「日の本」――『嘉元百首』定為歌をめぐって

第十一章 中世百首歌における「釈教」題――『嘉元百首』を中心に

第十二章 中世連歌における「釈教」――『新撰菟玖波集』をめぐって

IV 部

仏教の詠歌史

第十三章 『極楽願往生和歌』における詠歌と願い

第十四章 藤原俊成における「声なるもの」の諸相

第十五章 『続古今和歌集』神祇歌と高野――祈親上人定誓を手がかりに

第十六章 『慕帰絵』における覚如の歌

第十七章 正徹の和歌と「竜女成仏」

おわりに

参考資料

一 院政期歌学書における音韻相通に関わる記述

二 仙覚『萬葉集註釈』悉曇および

和語の音韻・文字に関わる記述（稿）

三 『続千載和歌集』所収後宇多院長歌

四 百首歌の歌題構成抄（稿）

五 『新古今和歌集』釈教歌・

『新千載和歌集』釈教歌・

『新撰菟玖波集』釈教連歌 本文

六 『極楽願往生和歌』本文

七 関連略年表

あとがき／初出一覧

索引（書名索引・人名索引・和歌連歌初句索引）

定価 11,000円・本体10,000円
A5判・上製カバー装・704頁
2026年2月刊行
ISBN978-4-585-39058-9 C3095

書名	冊数
梵漢和の中世 岡崎真紀子〈著〉	冊
定価 11,000円・本体10,000円 A5判・上製カバー装・704頁 2026年2月刊行 ISBN978-4-585-39058-9 C3095	
ご氏名／ご送付先ご住所（通信欄）	

株式会社勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <https://bensei.jp/>

FAX●03-5215-9025

中川博夫〔著〕

北条時広家集

注釈と研究

鎌倉幕府第六代将軍宗尊親王の下で一芸堪能の昼番衆、近習の歌仙としてあつた北条時広（貞応元年（一二二二）～建治元年（一二七五））。冷泉家時雨亭文庫に蔵される時広の家集『故越前々司時広哥』を底本とし、その全編を翻刻し、精緻に注釈。また、研究篇として、家集の成立を考証し、所収歌の様相を考察する論考を収載。鎌倉期関東歌壇の北条氏の数多の御家人歌人の中で、唯一現存する家集の存在意義を明らかにする画期的成果。

目次

緒言

注釈編

『時広集』注釈稿

研究編

第一章

『時広集』の成立

第二章

『時広集』の和歌の様相

初出一覧
初句索引

著者紹介

中川博夫（なかがわ・ひろお）

1956年生まれ。鶴見大学名誉教授。専門は和歌文学。著書に『中世和歌論——歌学と表現と歌人』（勉誠出版、2020年）、『鎌倉期関東歌壇の研究』（花鳥社、2025年）、論文に「自撰家集としての『中書王御詠』（『日本文学研究ジャーナル』20、2021年）、「鎌倉期関東歌壇と道歌」（『日本文学』71-5、2022年）などがある。

書名	部数
北条時広家集 注釈と研究 中川博夫〔著〕	部
ご送付先ご住所（通信欄）	

定価 **11,000**円
(本体10,000円)

A5判・並製カバー装・304頁
ISBN 978-4-585-39060-2 C3095
2026年5月刊行

勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX●03-5215-9025

中世前期の 武家の学問と交流

金沢文庫本と称名寺聖教

鎌倉幕府が擁立した後嵯峨院期に公武の交流が緊密となって以降、京都の文化が鎌倉に流入し、さらに御家人らを通して地方へ伝播していった。東国の知の中枢として後世に至るまでその名を轟かせた金沢文庫の典籍、そして、金沢北条氏の菩提寺称名寺に残された称名寺聖教を仔細に検討、鎌倉時代中期から南北朝後期における和書・漢籍・聖教類の東国への伝来と享受、さらには地方における展開を見通し、そこに関わった人々と知のネットワークを明らかにする。

第一部 金沢北条氏の京都との交流と蔵書管理

第一章 鎌倉後期の鎌倉・京都の交流——金沢文庫文書を通して

第二章 称名寺と金沢文庫——東国鎌倉の「知」の中枢

第三章 金沢文庫文書の目録作り——初代文庫長関靖先生へもどる仕事

第二部 法流の相承と鎌倉の拠点寺院

第一章 中世寺院のネットワーク

第二章 安達泰盛と鎌倉の寺院

第三章 鎌倉松谷正法蔵寺小考

第四章 金沢称名寺と伊勢・鎮西——伊勢国高角大日寺をめぐる

第三部 北条実時の漢籍受容とその媒介者

第一章 鎌倉中期の京・鎌倉における漢籍受容者群——『管見抄』と『鳩嶺集』のあいだ

第二章 鎌倉中期の京・鎌倉の漢籍伝授とその媒介者——金沢文庫本とその周辺

第三章 『名語記』の著者経尊とその周辺——鎌倉中期の公武交流と西国の交通・流通

第四部 知識の蓄積・利用のありかたと武家政権

第一章 延慶改元・改暦への鎌倉幕府の関与について——『大唐陰陽書』付載文書の検討をてがかりにして

第二章 鎌倉期の年号勘申者の家と公武政権

第三章 年号勘文より見た南北朝期における朱子学の受容

第四章 中世前期の武家の蔵書と読書

福島金治

〈著〉

定価 11,000円・本体10,000円
A5判・上製カバー装・392頁
2026年5月刊行
ISBN978-4-585-32098-2 C3021

書名	冊数
中世前期の武家の学問と交流 ——金沢文庫本と称名寺聖教 福島金治〈著〉	定価 11,000円・本体10,000円 A5判・上製カバー装・392頁 2026年5月刊行 ISBN978-4-585-32098-2 C3021
冊	
送付先住所・氏名(通信欄)	

株式会社 勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <https://bensei.jp/>

FAX 03-5215-9025

児玉絵里子〈著〉

かよう

びんた

歌謡と芸態

定価4,180円・本体3,800円
四六判・並製カバー装・304頁
2026年1月刊行
ISBN978-4-585-37023-9 C1070

京都芸術大学専任講師で博士(文学)。早稲田大学大学院修了後、沖繩美ら島財団やドナルド・キーン・センター等の学芸員を歴任し、二〇二六年四月より京都美術工芸大学に着任予定。琉球の染織や芸能史を専門とし、『琉球紅型』や『図説琉球の染めと織り』等の著書がある。第十回木村重信民族芸術学会賞を受賞。幼少期より尚家との縁があり、当間一郎や西江喜春ら諸師に師事、琉球芸能の研究を積む。

在原業平の 表象

物語はいかにして、表象されたのか――

『伊勢物語』『源氏物語』などの物語、そして和歌は、

若衆歌舞伎・歌舞伎若衆の衣裳や美術にどのように取り入れられたのか。

そして、それらは琉球宮廷舞踊にどのような影響を与えたのか。

描かれた若衆歌舞伎の絵画や、琉球紅型の衣裳に見える文芸表象とは。

人々はそこに何を託し、何を伝えようとしたのか。

従来各々の視点から言及されることの多かった

「歌謡」――踊歌や詞章と、

「芸態」――舞踊の所作・振り・型という、

文献研究と身体的考察を、多数の絵画や文献から総合的に行った意欲作！

図版点数一〇〇点超！



第一章

カラー口絵／はじめに／本扉解説「機織図」
歌謡と芸態
琉球王府御奉行
玉城朝薫の見た大和芸能と仕舞・軒端の梅(世阿弥作「東北」)

第二章

歌謡からみた琉球宮廷舞踊
芸態比較研究による琉球芸態
――琉球宮廷舞踊「かぎやて風」と組踊「朝薫五番」
歌謡と芸態踊衣裳
若衆歌舞伎と歌舞伎の意匠 ゆきのふりそでちらくんと
絵巻に描かれたもの――踊歌「雪の振袖」と赤い点
「大小の舞図」と雪輪の意匠
『伊勢物語』九段と「鹿の子斑」
若衆歌舞伎「業平踊」
機織図屏風の表象
雪の振袖――「雪・花・若衆」の表象
若衆の表象と在原業平――雪・花・業平

第三章

琉球紅型と在原業平
琉球芸態をめぐる表象と大和の歌謡
琉歌と大和歌謡と在原業平
図像に込められた表象と歌謡――紅型の模様
業平・『伊勢物語』と紅型意匠

終章

祇園祭と在原業平
山鉦「鷹山」と歌舞伎の図像学
鷹狩と少将
祇園祭 山鉦「鷹山」と在原業平・在原行平
大津絵「鷹匠」と歌舞伎若衆――初世佐野川市松
祇園祭「鷹山」――在原業平と歌舞伎の図像

書名	冊数
歌謡と芸態――在原業平の表象 児玉絵里子〈著〉 定価4,180円・本体3,800円 四六判・並製カバー装・304頁 2026年1月刊行 ISBN978-4-585-37023-9 C1070	冊
ご氏名／ご送付先ご住所（通信欄）	

室町時代の 将軍家と雅楽

定価 11,000円・本体10,000円
A5判・上製カバー装・512頁
2026年5月刊行
ISBN978-4-585-32096-8 C3021

「雅楽」は足利将軍の政治的武器だった――

なぜ中世の天皇・貴族は管絃の演奏に励み、歴代足利将軍家は雅楽(笙)と深いかわりをもったのか。そこには、単なる趣味や芸術的志向性ではなく、それぞれの権威や地位を演出するための不断の政治的努力があった。歴代室町将軍が、時代的背景や政治的必要性に応じて雅楽に接する姿を変化させながら、セルフプロデュースに雅楽を利用した実態を解明。

雅楽という視点から各将軍たちが背負った課題と解決策を明らかにし、室町期の政治史を読み解く。

これまでの音楽史中心の雅楽研究に一石を投じ、政治史・公家社会史・権力論の新たな地平を切り拓く画期的成果。

序章 研究史の整理と本書の視角

第一部 中世の公家社会における雅楽

- 第一章 家業としての雅楽と御遊
第二章 鎌倉後期～室町期の綾小路家
第三章 中世天皇制と学芸
補論 光明天皇に関する基礎的考察

第二部 足利将軍家と雅楽

- 第一章 南北朝期における足利家の笙
第二章 足利家における笙と笙始儀
第三章 足利義材の笙始儀と豊原統秋
第四章 笙器「達智門」にみる足利義材の近江出陣
第五章 足利義植にとっての笙と義満先例――将軍権威再建への試行錯誤
第三部 足利義満と雅楽

- 第一章 「内侍所御神楽部類記」にみる足利義満と室町前期の公家社会
第二章 足利義満と笙との関係についての再検討
第三章 足利義満の笙と西園寺実兼の琵琶
第四章 ――一四世紀における公家社会の変容を考えるための一視角
補論 北山殿行幸再考
足利義満の元服

終章

あとがき／初出一覧／索引

詳細目次
は裏面

石原比伊呂 〈著〉
(いしはら・ひいろ)一九七六年生。聖心女子大学現代教養学部准教授。日本中世史(中世後期公武関係論)専攻。主な著書に『足利将軍と室町幕府――時代が求めたリーダー像(我光祥選書ソレイユ、我光祥出版、二〇一八年)』『北朝の天皇――「室町幕府に翻弄された皇統」の実像(中公新書、二〇二〇年)』『増補改訂版 室町時代の将軍家と天皇家(勉誠社、二〇二四年)』、編著に『戦国・室町天皇列伝(我光祥出版、二〇二〇年)』などがある。

書名

室町時代の将軍家と雅楽
石原比伊呂〈著〉

定価 11,000円・本体10,000円
A5判・上製カバー装・512頁
2026年5月刊行
ISBN978-4-585-32096-8 C3021

冊数

冊

送付先住所・氏名(通信欄)

株式会社勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <https://bensei.jp/>

FAX●03-5215-9025

室町時代の將軍家と雅楽

序章 研究史の整理と本書の視角

- 第一節 雅楽史研究の基礎的考察
- 第二節 中世史研究としての雅楽史——その成果
- 第三節 中世史研究としての雅楽史——その課題と可能性

第一部 中世の公家社会における雅楽

第一章 家業としての雅楽と御遊

- はじめに
- 第一節 『御遊抄』に見る雅楽の家
- 第二節 雅楽の家の二形態と雅楽の特性
- 第三節 御遊の性格

第二章 鎌倉後期～室町期の綾小路家

- はじめに
- 第一節 応永一五年の殿上淵辭
- 第二節 綾小路家と楊梅家
- 第三節 雅楽秩序の再編
- 第四節 争論の帰結
- 第五節 応永の争論以後の「うたいもの」
- 第六節 室町時代の綾小路家と楽書

第三章 中世天皇制と学芸

- 第一節 中世天皇制と学芸に関する研究史
- 第二節 光明天皇と学芸
- 第三節 光明天皇からみる中世天皇制と学芸
- 第四節 中世天皇制と学芸についての再解釈

補論 光明天皇に関する基礎的考察

- はじめに
- 第一節 光明天皇の教養
- 第二節 光明天皇と光厳上皇

第二部 足利將軍家と雅楽

第一章 南北朝期における足利家の笙

- はじめに
- 第一節 尊氏・基氏と頼義・義光
- 第二節 笙と東国
- 第三節 義詮と義家

第二章 足利家における笙と笙始儀

- はじめに
- 第一節 義満の笙と義嗣
- 第二節 笙始儀と義持の笙
- 第三節 義教以降の將軍と笙

第三章 足利義材の笙始儀と豊原統秋

- はじめに
- 第一節 足利義材の笙始儀
- 第二節 足利義材と豊原統秋
- 第三節 足利義材と松木宗綱

第四章 笙器「達智門」にみる足利義材の近江出陣

- はじめに
- 第一節 足利將軍家と達智門
- 第二節 義材の近江出陣と達智門
- 第三節 近江出陣と義材の政権構想

第五章 足利義植にとつての笙と義満先例

——將軍權威再建への試行錯誤

- はじめに
- 第一節 足利義植と雅楽
- 第二節 足利義植と「鹿苑院殿佳例」

第三部 足利義満と雅楽

第一章 『内侍所御神楽部類記』にみる

足利義満と室町前期の公家社会

- はじめに
- 第一節 内侍所御神楽と綾小路敦有
- 第二節 内侍所御神楽と南北朝動乱
- 第三節 敦有の先例操作

第二章 足利義満と笙との関係についての再検討

- はじめに
- 第一節 蘇合伝受
- 第二節 義満の公家化と笙
- 第三節 義満の笙と北朝天皇家

第三章 足利義満の笙と西園寺実兼の琵琶

——一四世紀における

公家社会の変容を考えるための一視角

- はじめに
- 第一節 天皇の笙始と義満
- 第二節 後円融の笙習得
- 第三節 義満と西園寺実兼

第四章 北山殿行幸再考

- はじめに
- 第一節 行幸のあり方
- 第二節 義嗣の行動について
- 第三節 北山殿行幸の意味

補論 足利義嗣の元服

- はじめに
- 第一節 義嗣元服の基礎史料とその比較対象
- 第二節 義嗣元服と東宮元服
- 第三節 親王元服と摂関家元服

終章

- 内容のまとめ
- 本書の成果——「王権篡奪計画説」との対決の果てに
- 研究史進展への応答
- 今後の課題

- あとがき
- 初出一覧
- 索引

李銘敬・小峯和明〔編〕

日中古典文芸の
往還と対話アジア遊学
318定価 3,520 円
(本体 3,200 円)A5判並製カバー装・344頁
ISBN 978-4-585-32564 C1390
2026年5月刊行

漢字漢文文化圏に属する日本古典文芸は、中国文化の影響を深く受けており、

その形成と発展の過程において、模倣と被模倣、引用と被引用、

そして翻訳や借用といった源と流の密接な関係が長く続いてきた。

それらの関係性を考えるためには、単なる出典関係を指摘するだけではなく、

その基礎的研究を踏まえ、それぞれの文化的内実を掘り下げ、

異文化交流における受容のメカニズムや特徴を明らかにする必要がある。

多面的な視点から、幅広い分野の作品の源流を丁寧な考証する、意欲的な一冊。

〔編者プロフィール〕

李銘敬（り・めいけい）

中国人民大学教授、早稲田大学大学院博士課程修了、
博士（文学）。専門は中日仏教説話文学専攻。

小峯和明（こみね・かずあき）

立教大学名誉教授、元・中国人民大学高麗外国語専攻、
専門は日本古典文学、東アジア比較説話。

〔目次〕

〔序文〕潮流徂源——日本古典文芸研究への新たな試み◎李銘敬

Ⅰ 古代篇——古典文芸の形成と展開

散佚説話からみた『冥報記』説話の生成と特徴◎李銘敬

成尋『参天台五台山記』を読む——異文化交流文学の一駒◎小峯和明

〔コラム〕『日本書紀』中巻第三三縁における飛天夜叉説話の受容

『朝野群載』『西陽雜俎』『河東記』との比較を通して◎崔鵬偉

『今昔物語集』震旦部巻九の羊軋生譚

——その特徴と位置付けについて◎趙倩倩

漢訳仏典と漢籍の文体差による訓読法の異同

——「不可」を例として◎李競一

Ⅲ 近世・近代篇——古典文芸の環流と再創造

スペインサー本『張良』絵巻における物語化の方法◎向 偉

楊貴妃と鳥——古浄瑠璃『楊貴妃物語』までの文学史小考◎宋春曉

『伽婢子』の『剪刀余話』翻案——『梅花屏風』を中心として◎蔣雲斗

草子類にみえる「南柯の夢」の受容と変容◎虞雪健

『本朝校陰比事』における物語の再創造

——「妻に泣する梢の鶯」の典拠と変容をめぐる◎鄭一鳴

都賀庭鐘の小説と本草学◎王順鑫

諺の漢訳——近世日本漢文笑話を中心に◎栗野友絵

越境する人面瘡——東アジアにおける医学知識の伝播◎伊 丹

近世読本における李漁戯曲の受容の相違について

——馬琴と雅望を中心に◎任清梅

『近世説美少年録』の白話語彙についての考察◎鄭文君

画家の見た大陸——橋本関雪「南方の構想」を手がかりに◎劉 妍

編集後記◎蔣雲斗

編集後記◎栗野友絵

「あとかき」に代えて 善き縁に恵まれて

——我が日本留学・研究滞在時に知遇を得た師友記◎李銘敬

銘敬さんに贈る・桜と桃の樹の下で

——あとかきのあとかき◎小峯和明

日中古典文芸の往還と対話

〔アジア遊学318〕

李銘敬・小峯和明〔編〕

書 名

部数

定価3,520円(本体3,200円)

A5判並製カバー装・344頁
ISBN978-4-585-32564-2 C1390
2026年5月刊行

部

ご送付先(氏名・住所・電話番号)

加藤大鶴・石山裕慈・佐々木勇〔編〕

アジア遊学 320

日本語と漢字音・漢語音

データベースが切り開く新しい世界

〔編者プロフィール〕

加藤大鶴（かとう・だいかく）

早稲田大学文学部教授。
専門は漢語アクセント史。
主な著書に『漢語アクセント形成史論』（笠間書院、二〇一八年）、などがある。

石山裕慈（いしやま・ゆうじ）

神戸大学大学院人文科学研究科教授。
専門は日本漢字音史。
主な著書に『動的視点からの日本漢字音史研究』（勉誠社、二〇二五年）などがある。

佐々木勇（ささき・いさむ）

広島大学大学院教授。
専門は日本語史。
主な著書に『平安鎌倉時代における日本漢音の研究』（汲古書院、二〇〇九年）などがある。

漢語・漢字は、日本語を使う私たちの言語生活に欠かせないものだ。しかし、その漢語や漢字が日本語話者によってどのように読まれてきたのか、ということを実証的に明らかにしていくことは必ずしも容易ではない。

一〇〇〇年以上にわたる付き合いの中で、どのように漢語・漢字が発音され、定着ないし消滅していったのか――

そのことを限られた資料や痕跡から明らかにしていくことが漢語音・漢字音研究の目標である。漢語音・漢字音研究の方法論や視角、他の学問領域との交差の在り方を紹介する第一部、そして近年開発・構築の進められている

「資料横断的な漢字音・漢語音のデータベース（DHSSJR）」の狙いや意義、また、それを利用した新たな研究の展開を提示する第二部・第三部より構成。新たな漢字音・漢語音研究の魅力と面白さを伝える貴重な一冊。

〔目次〕

第一部

「はじめに」データベースの構築と漢字音研究の展開◎加藤大鶴

漢字音研究の現在◎石山裕慈

呉音・漢音の歴史と資料◎佐々木勇

漢音奨励と訓読◎湯沢賢幸

中近世の同時代字音たる唐宋音について◎岡島昭浩

漢字音と国語音の交渉◎肥爪周二

第二部

人文情報学と漢字音研究

「漢字音の一元化」について◎大島英之

日本仏教研究者が漢字音研究から受けた恩恵◎師茂樹

DHSJRの設計と概略◎加藤大鶴

DHSJRにおける漢字字体の正規化の試み◎大島英之

漢字音・漢語音データベースと『大般若経字抄』◎中澤信幸

「資料横断的な漢字音・漢語音データベース」の

語彙資源化の試み◎高田智和

古辞書・音義・音積類の漢字音注記の源流を探る

――研究の軌跡とデジタル世界の夢◎池田証寿

第三部

漢字音研究の最先端

改編本『類聚名義抄』の増補と「切韻」◎鈴木裕也

石山寺本守護国界主陀羅尼経長保頃点の漢字音◎肥爪周二

明治大正期の外国語辞書における

漢字音・漢語音をめぐって◎石山裕慈

妙一記念館本『仮名書き法華経』の声点加

点◎同時期の字音直読資料との比較から知られること◎佐々木勇

呉音読される文体における漢音去声の上声化◎坂水貴司

資料横断的な漢字音・漢語音データベース(DHSSJR)

における連声濁◎浅田健太郎

漢語アクセントにおける低起上昇型間の揺れ◎加藤大鶴

定価 3,300 円（本体 3,000 円）

A5判並製カバー装・240頁
ISBN 978-4-585-32566-6 C1380
2026年7月刊行

書名	部数
日本語と漢字音・漢語音 データベースが切り開く新しい世界 【アジア遊学320】 加藤大鶴・石山裕慈・佐々木勇〔編〕	部
ご送付先(氏名・住所・電話番号)	

定価3,300円(本体3,000円)
A5判並製カバー装・240頁
ISBN978-4-585-32566-6 C1380
2026年7月刊行

株式会社勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <https://bensei.jp/>

FAX●03-5215-9025

字典・詞典の研究

藤本灯 [編]

(ふじもと・あかり)
清華大学副教授
古代学協会客員研究員

阿辻哲次・池田証寿 [監修]

(あつじ・てつじ)
漢検 漢字博物館・
図書館館長
京都大学名誉教授

(いけだ・しょうじゅ)
北海道大学名誉教授

定価 11,000 円
(本体価格 10,000 円)
A5 判上製カバー装・472 頁
ISBN978-4-585-38008-5 C3080
2026 年 2 月刊行

文字のための字典、 言葉のための詞典が交差する 東アジアの言語世界

中国最初の漢字字典『説文解字』（西暦100 年頃）から
日本の『日本大辞書』（1892-1893年）まで、
古今の辞書を対象に、系統研究から、成立論、字体史、
音韻史、語彙史、受容史、データベース化まで、
さまざまな角度からおこなわれてきた辞書研究を、
日中韓の研究者が集い総合的に捉える初の試み。



※「字典」「詞典」とは——

「字典」(じてん)…漢字字典や韻書、
「詞典」(してん)…それ以外の辞典
(国語辞典、語源辞典など)を指す。

【目次】

序 文
「小学」からの脱皮——漢字研究の新しい地平■阿辻哲次
日中辞書研究の対話に向けて——『字典・詞典の研究』の刊行によせて■池田証寿

第一章 「字典」の研究

朝鮮本『龍龕手鑑』の増補資料■田中郁也
朝鮮本における字体——『洪武正韻』と『新增類合』を例にして■楊 慧京
観智院本『類聚名義抄』の「俗通」字について■張 馨方
「字鏡集」の漢字音についての試論■伊藤智弘
色葉字平他類韻書の利用実態及び位置付け
——『伊呂葉字平它』『色葉字平它』を例に■康 凱欣
近世琉球で使用された字書についての一報告■中野直樹
『増続大広益会玉篇大全』本文の典拠について
——『大広益会玉篇』・『字彙』・『正字通』等の利用■中野直樹・劉 冠偉

第二章 日本における「詞典」の研究

『本草和名』所引佚書初探
——「諸家食経」と「諸家本草音義」を中心に■武 倩
『倭名類聚抄』における漢音注の編纂過程について■鈴木裕也
日本の「国語辞書」の語彙の消長
——『色葉字類抄』口篇豊字部の熟語を母体として■藤本 灯
『色葉字類抄』における呉音漢音混読語の性格■大島英之
『名語記』と悉曇学■小林雄一
十九世紀における『倭訓栞』の受容■小野春菜
『日本大辞書』の「誤り」を捉え直す——連歌用例をめぐる■河瀬真弥

第三章 古辞書の構造化

日本古辞書の構造化記述について——『篆隸万象名義』を例に■李 媛
TEI/XMLとRDFによる日本古辞書の典拠情報記述モデル■申 雄哲
古辞書Web 研究資源横断検索のためのメタデータ設計■劉 冠偉

第四章 【講演】の部

『説文解字讀』について■阿辻哲次
中国最初の漢字字典『説文解字』はなぜ
漢字の構成原理を説くことを主な内容とするのか
——出土文献研究の視野から『説文解字』を考える■李 守奎
日本辞書史研究の回顧——平安時代を中心に■池田証寿
『和名類聚抄』から『倭名類聚鈔箋注』へ(続)■萩原義雄
あとがき■藤本 灯
執筆者紹介

書 名	部 数
字典・詞典の研究	部
藤本灯 [編] 阿辻哲次・池田証寿 [監修]	
ご送付先ご住所・氏名 (通信欄)	

日本酒を読み解く

歴史・文化・技術

アジア遊学 312

畑有紀
HATA YUKI
芳澤元
YOSHIZAWA Hajime
〈編〉



「日本の酒の文化」を問う

古来、人々の生活に根付いてきた「日本酒」。

日本酒は、神道や仏教をはじめとする信仰とどのように関わってきたのか。

物語や小説といった文学ではどう描かれてきたのか。

酒税制度の変遷や酒造業、また、杜氏集団や酒蔵で働く人々の組織は

地域経済・社会でどのような役割を果たしてきたのか。

さらには、酒をめぐる言葉や表現はどのような変遷をとげてきたのか。

歴史学、文学、経済学、経営学など人文社会科学領域の諸分野からアプローチし、

多層的な広がりをもつ日本酒の文化の在り方を体系的に捉える。

定価 3,300 円
(本体 3,000 円)

A5判・並製・カバー装・256頁
ISBN 978-4-585-32558-1 C1321
2025年12月刊行

「日本の酒の文化」を問う◎畑有紀

第1部 酒の歴史的・文化的受容

『源氏物語』の酒——酔いのまざれと「もののみざれ」◎石井公成
宮中儀礼における酒と音楽

——『古今著聞集』『平家物語』『うつつは物語』にみる酒宴と歌謡◎猪瀬千尋
室町社会が導いた日本酒イノベーション◎松永和浩

室町・戦国期の京都における「田舎酒」の入手方法と価値◎酒匂由紀子
中世北陸・越後の酒造——白山系地域寺社の展開と醸造◎芳澤元

黄表紙に見る酒の知識とイメージ
——「十返舎一九」福徳三年酒を例として◎畑有紀

第2部 酒の技術革新と近代化

近世越後における町方酒屋と在方酒屋

——村上城下町とその周辺◎原直史
幕末期上方酒造業経営と宮水◎大浦和也

明治・大正期以降の酒造労働と技術普及◎堀圭介
日本酒・焼酎の近代化と海外技術文化の受容◎佐藤淳

第3部

酒の地域資源化と国際展開

新潟清酒における「淡麗辛口」の制度化と地域アイデンティティの形成

——地域記号の誕生とその揺らぎを越えて◎岸保行
「古代酒」を手がかりにした文化財の普及啓発活動◎庄田慎矢

日本酒とラグジュアリー◎石塚千賀子
フランスにおける日本酒文化の軌跡探究◎川本美希

日本酒の評価・鑑賞の言葉◎福島由輝

「日本酒史学」の愉悅——あとがきにかえて◎芳澤元

書名

日本酒を読み解く

歴史・文化・技術【アジア遊学312】

畑有紀・芳澤元【編】

部数

定価3,300円(本体3,000円)

A5判・並製・カバー装・256頁
ISBN978-4-585-32558-1 C1321
2025年12月刊行

部

ご送付先(氏名・住所・電話番号)

株式会社勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <https://bensei.jp/>

FAX◎03-5215-9025

齊藤研一

〔著〕

（さいとう けんいち）立正大学文学部史学科特任准教授。専門は日本中世史、生活文化史。主な著書に『子どもの中世史』（吉川弘文館、二〇〇三年）、論文に「イヅメ——中世末期の風俗図屏風に描かれた育児用具（立正大学文学部論叢）二四四号、二〇二二年」。「カニが雷神を扶む」カマギリが雷神に挑む——諺で読む『戯画図巻』二（齊藤眞麻理編『戯画図巻』の世界——競う神仏、遊ぶ賢人』KADOKAWA、二〇二四年）などがある。

絵画史料を 読む

絵画史料を

読むための

実践入門書！

絵画史料が語る中世・近世の人々の暮らしと心性

疫病が流行した時、人々はどんな行動をとったのか。女性たちは、日々どんな仕事をしていたのか。酒呑童子絵巻から読み取れることは何か。そして幕末の錦絵に描かれた朝比奈義秀とは。暖簾や看板、酒宴の様子や、人と動物の関わりなど、絵巻物や洛中洛外図に描かれた図像を比較・検討し、共通点や差異、変化を読み解き、その時代を生きた人々の生活の様相、考え方を明らかにする。

はじめに

1 疫病と法師陰陽師——『春日権現験記絵』巻八第二段を読む

●はじめに●疫病●鬼は外●法師陰陽師と紙冠●門戸にて●病人の姿●疫神の襲来●『唯識論』の発見●おわりに
〔補論1〕鉢巻

2 洗濯革命——「足踏み洗い」から「手揉み洗い」へ

●はじめに●絵画史料によるアプローチ●絵巻に見る洗濯●洗濯方法の変化●洗濯方法が変わった要因●おわりに
3 働く女性たち

●絵巻に描かれた働く女性●職人歌合に描かれた働く女性●青屋の女性とイヅメ

4 暖簾・看板・そして井戸——初期洛中洛外図屏風の図像

●はじめに●描かれた暖簾●描かれた看板●職人の姿あれこれ●町屋の裏に描かれた井戸●結びにかえて
〔補論2〕蜈蚣（ムカデ）

5 酒宴の風景

●はじめに●室内での酒宴●人道（人間界）の酒宴●野外での酒宴●桜の折枝●おわりに
6 捕獲・加工・消費される動物たち

●『粉河寺縁起絵巻』——捕獲・加工・消費が描かれた絵巻●捕獲——描かれた狩猟と漁撈
●戦国期の狩猟図——鷹と馬●加工——皮を張る●消費——台所に描かれた動物●流通——店頭で売られる動物

7 酒呑童子の首が大路を渡る

●はじめに●三人の少年たち●四人の男たち●首を運ぶ●おわりに
〔補論3〕チェスター・ビーター・ライブラリー所蔵『大江山絵巻』解題

8 「朝比奈島遊び」を読む

●歌舞伎の朝比奈●朝比奈と小人●異国の巨人●異国の小人●横浜開港

おわりに

図版出典一覧／初出一覧



『信貴山縁起絵巻』尼公巻・模本、国立国会図書館蔵

定価4,620円・本体4,200円
四六判・上製カバー装・352頁
2026年3月刊行
ISBN978-4-585-32090-6 C1021

書名

絵画史料を読む——中世・近世の生活文化史

齊藤研一〔著〕

定価4,620円・本体4,200円
四六判・上製カバー装・352頁
2026年3月刊行
ISBN978-4-585-32090-6 C1021

冊数

冊

ご氏名／ご送付先ご住所（通信欄）

株式会社勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <https://bensei.jp/>

FAX●03-5215-9025

世界女帝事典

義江明子・氣賀澤保規・井野瀬久美恵

編

帝京大学名誉教授
専門は日本古代史・女性史

元明治大学文学部教授
専門は隋唐政治社会史

甲南大学名誉教授
専門はイギリス近代史・帝国史

定価5,940円・本体5,400円・A5判・並製カバー装・368頁・2026年5月刊行・ISBN978-4-585-30026-7 C1000

古今東西の女性執政者を網羅！

古代から現代まで、世界史上に現れた女帝や女王、摂政、母后などの女性執政者や小国の領主約150名を詳細に解説。

人物を生み出した地域的、時代的な特質や背景を解説した地域概説、

日本・アジア・ヨーロッパを中心とした地域を比較検討した総論も収録。

カラー口絵・系図や、現代の女性政治家・神話伝承・モノや表象に関するコラム、

女帝の在位期間と世界の動きを比較できる年表、人名索引を掲載

本邦初の
女帝事典！

主な収録項目 ※一部抜粋

- ◆日本◆卑弥呼◆推古天皇◆持統天皇◆孝謙・称徳天皇◆北条政子◆寿桂尼
- ◆中国◆呂后◆馮太后◆則天武后◆孟皇后◆西太后◆宋美齡
- ◆朝鮮◆善徳女王◆千秋太后◆文定王后
- ◆東南アジア◆徴側◆トリブワナー◆ナフラシヤ◆カマラト・シャー
- ◆南アジア◆プラバーヴァティー◆ルドラマーデーヴィー◆ヌール・ジャハーン
- ◆中央アジア・西アジア◆アーイシャ◆タマル◆クルマンジャン・ダトカ
- ◆古代地中海世界◆マケドニア◆ビザンツ◆ハトシェプスト女王◆ネフェルティティ(ネフェルトイティ)◆テアノ◆クレオパトラ七世◆ゼノビア
- ◆ポーランド◆ハンガリー◆ロシア◆オリガ◆エレナ◆グリンスカヤ◆ソフィヤ◆エカテリーナ二世
- ◆ドイツ◆オーストリア◆マルガレーテ・フォン・エスターライヒ◆マリア・テレジア
- ◆ペネルクス◆ジャンヌ・ド・コンスタンティノープル◆マルグリット・ド・コンスタンティノープル◆ヨハンナ・ファン・ブラバント
- ◆北欧◆マルグレーテ◆クリスティーナ
- ◆フランス◆アリエノール・ダキテーヌ◆カトリーヌ・ド・メディシス◆マリ・アントワネット
- ◆イタリア◆ジョヴァンナ一世◆イザベッラ・デステ◆マリア・ルイーザ
- ◆イベリア半島◆アルマセンド◆イサベル一世◆マリア一世
- ◆イギリス◆メアリ・ステュアート◆エリザベス一世◆ヴィクトリア女王◆エリザベス二世
- ◆アフリカ◆ンジンガムバンディ◆ラナヴァルナー一世◆マダム・ヨコ◆ザウディト
- ◆北米◆ポカホンタス
- ◆メキシコ◆中米◆南米◆インシュ・ヨフル◆イクナル女王
- ◆オセアニア◆リリウオカラニ女王◆サーロテ・ツポウ三世

書名	冊数
世界女帝事典 義江明子・氣賀澤保規・井野瀬久美恵(編)	冊
定価5,940円・本体5,400円 A5判・並製カバー装・368頁 2026年5月刊行 ISBN978-4-585-30026-7 C1000	
送付先住所・氏名(通信欄)	

株式会社勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <https://bensei.jp/>

FAX●03-5215-9025



舞楽図の 近世的展開

ぶがくしず

八世紀に律令国家の成立とともに国家の儀礼を荘厳するものとして制度化され、以来、現在に至るまで千三百年以上にわたり、わが国の宮中行事や主要な神社の法会などで催されてきた舞を伴う音楽である舞楽。この舞楽を独立した画題とする「舞楽図」には、曲目ごとの舞人・楽人あるいは舞楽が催される情景などが描かれている。舞姿や装束など故実の記録画でもあり、王朝文化の象徴ともいえる舞楽図は、近世期の武家社会においてどのように受容され、武家の文化として浸透し、そしてどのようにやまと絵の一画題として広まっていったのか。中世末から近世後期までの舞楽図の作例を順に取り上げ、描かれた舞楽の様相と制作背景、そして同時代の社会背景に目を向けながら、その変遷を考察する。

カラー口絵／凡例／序論

第一部 形成

第一章 源氏物語と舞楽図——土佐光信筆「源氏物語画帖」

第二部 変奏

第二章 近世初期舞楽の再興と醍醐寺——依屋宗達筆「舞楽図屏風」

第三章 徳川將軍家と舞楽——日光山輪王寺蔵「舞楽図屏風」

第四章 大名と舞楽図——久隅守景筆「舞楽図屏風」

第五章 出雲大社の舞楽再興——落合利兵衛筆「舞楽図屏風」

第六章 継承された粉本——松平定信と「古画舞楽図」

第七章 近世後期舞楽図の復古と新たな系譜

史料

参考資料1 東京文化財研究所蔵売立目録記載の舞楽図一覽

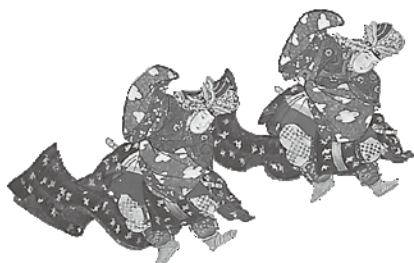
参考資料2 「舞楽図屏風」(桃翁筆本)曲目一覽

参考資料3 「舞楽図屏風」(A家本)曲目一覽

舞楽図関連年表(中世・近世)

古谷美也子〈著〉

(ふるや・みやこ)国立音楽大学卒業。筑波大学大学院博士後期課程修了。博士(芸術学)。現在、小山市立屋敷美術館学芸員。昭和女子大学非常勤講師。主な論文に「大倉孫兵衛と大日本物産図会——制作背景についての考察」(筑波大学附属図書館蔵三代歌川広重画「大日本物産図会」調査報告論文集二〇一七年)、「日光山輪王寺蔵「舞楽図屏風」についての一考察」(藝叢三十四号、二〇一九年)、「ハーヴァード大学美術館蔵「源氏物語画帖」の舞楽場面について」(風俗史学七十号、二〇二〇年)、「近世後期やまと絵の画題と朝儀再興——石清水臨時祭を例に——」(藝叢三十八号、二〇二三年)などがある。



定価 9,900円・本体9,000円
A5判上製・カバー装・400頁
2026年6月刊行
ISBN978-4-585-37024-6 C3071

書名	冊数
舞楽図の近世的展開——形成・変奏・復古 古谷美也子〈著〉	冊
ご氏名／ご送付先ご住所（通信欄）	

定価 9,900円・本体9,000円
A5判上製・カバー装・400頁
2026年6月刊行
ISBN978-4-585-37024-6 C3071

株式会社勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <https://bensei.jp/>

FAX●03-5215-9025